地元の静脈産業を担う企業のビジネスプランの考案

団体名●渡邉ゼミナール（２年生）／代表者名●渡邉和道（経済学部経済学科・准教授）

はじめに（背景・目的・目標）

2023年度2年次渡邉ゼミは、石川県中小企業家同友会と本学との連携協定にかかる活動として、共創インターンシップ事業を実施した。

具体的には、金沢市の株式会社宗重商店をパートナーとして、学生と社員が相互を訪問し、会社の抱える問題について学生の目線から解決に向けた提案をすることを目指して活動した。提案については、SDGs に関する視点を加えることで、学術的・社会的な意義のあるものとすることを前提とした。

株式会社宗重商店は、石川県を中心に解体事業・土木事業・不用品処分リサイクル事業などを営む企業である。

本活動前は、学生らは、こうしたいわゆる静脈産業への認知・関心がほとんどない状態であったが、活動を通じて、SDGs の謳う持続可能な開発を実現するためには、静脈産業の充実・発展が重要であるとの認識を持つようになった。学生間では、静脈産業に対する社会的認知の向上にむけた取り組みの必要性についても、議論がなされた。

活動内容

2023年8月2日、宗重商店にて担当者と教員が第1回目の打ち合わせをした。10月16日、宗重商店社長と経営管理室長が来学し、ゼミナール授業にて企業説明、業界説明を実施した。11月13日、宗重商店における第1回目活動実施し、会社見学、ディスカッションを行った。4班に分かれて報告を実施することを決定した。12月11日、宗重商店における第2回目活動実施し、具体的なビジネスプランに関するディスカッションを行った。

なお、2024年1月15日に宗重商店において報告会を実施する予定であったが、能登半島地震の影響を鑑み、中止となった。

現地における活動ののち、本学のゼミナールの授業において課題を整理した。SDGs の17の目標のうち、宗重商店の抱える課題の解決に資するものを選択し、4つのグループに分かれて検討を行った。

成果、結果の考察

企業は持続的な発展を目指す存在であることから、企業活動は本来的に「持続可能な開発目標」である SDGs と高い親和性を有するものであるとの結論に至った。

今後の課題、展望

中小企業が SDGs を実践する際の課題として、実践と収益を両立させることが挙げられる。

一方で、認知度や好感度といった数値化できない価値の向上に資する提案をするという点では、意義のある報告をすることができたと考える。